

世界水準の研究設備と環境性能を備えた新社屋「キミカ本館」が倉庫2棟とともに竣工
～ポストコロナ時代の新しい働き方を実現へ～

アルギン酸メーカーの株式会社キミカ（本社：東京都中央区、代表取締役社長：笠原文善）が創業80周年事業として千葉県富津市に建設していた新社屋「キミカ本館」が倉庫2棟とともに完成しました。

新社屋には、オフィス機能、研究開発機能、品質検査機能、福利厚生機能を集約し、オフィスエリアは従来比3倍、ラボエリアは従来比4倍に拡充しました。構想段階からワークショップを開催して社員の想いを汲み取り、環境性能に優れた技術や災害対応設備を数多く採り入れたほか、建物前面の広々とした緑地を地域に開放しました。ダイナミックな構造設計が生み出す24m×70mの柱のない大空間には「ワンルームオフィス」と「オープンラボ」を配し、建物中央のクロス階段で有機的に結ぶことで社員同士のコラボレーションを促す設計となっています。

「ジャパンSDGsアワード」や「環境大臣賞」の受賞企業に相応しい、人と地球にやさしい拠点が富津市に誕生しました。



1階には格調高いレンガ調のデザインを採用し、当社の80年の歴史と伝統の重みを表現。2階には近未来を連想させる全面ガラス張りのデザインを採用し、研究開発型のグローバル企業として業界の未来を牽引する決意を込めました。建物内部は落ち着いた木調で統一して天然木材をふんだんに使用しています。

新社屋「キミカ本館」の特徴と性能

■ ポストコロナ時代の新しい働き方を実現

ダイナミックな構造設計により生み出された 24m×70m の柱のない巨大空間は機能性に優れ、新たな事業展開への柔軟な対応を可能にしました。全席フリーアドレス制で、1 階(ワンルームオフィス)と 2 階(オープンラボ)が建物中央のクロス階段(内階段)で有機的に結ばれることで、社員の回遊性が高まり社員同士のコラボレーションを促しています。部屋の仕切りは見通しの効く全面ガラス張りとし、各所にコミュニケーションスペースを設けることで、互いに顔が見える、一体感を感じられる組織を志向しました。木調で統一された解放的な空間は、輻射空調システムによって温度ムラがない「からだに優しい住空間」となっており、居心地の良い快適な執務環境が実現しました。

■ 世界水準の研究環境を整備

研究エリアを従来比 4 倍に拡充し、オープンな理化学試験エリアに加えて、機器分析室や微生物試験室(クリーンルーム)、安定性モニタリング室等を機能別に区画分けしています。医療用材料(医薬品原薬、医療機器原料)メーカーに相応しい試験検査環境で、医薬品 GMP にも対応しています。アルギン酸の用途開発を行う「食品アプリケーションラボ」にはプロ仕様の製麺・製パン設備を揃え、約 100 名を収容できるセミナールームも併設しています。

■ サステナビリティの追及

輻射熱の特性(熱移動の原理)を活かした「次世代型輻射式空調」を採用し、その熱源を地下水に求める(冬は地下水から熱を取り出し、夏は地下水に熱を吸収させる)ことで、一般的な空気空調と比べて 50%以上環境負荷を削減しました。加えて、室温に影響を与えず新鮮な空気を採り入れられる外調機、外装ダブルスキンシステム(二重窓)、昼光制御の電動ブラインドを備え、建物に掛かる熱負荷を軽減しています(BELS 認定申請中)。

千葉プラントでは、今回新設した 435 枚の太陽光発電パネルを含め、毎年 43 万 kWh(二酸化炭素 182 トン相当)の再生可能エネルギーを生産しています。電気自動車の充電ステーションを設置して従業員に無料で開放するなど、地球環境と共存するための工夫を随所に凝らしています。

■ 安全確保と BCP 対策

建物全体を 60cm 底上げしたほか、ラボエリアと電気室は 2 階に配置して水害に備えました。通常の太陽光発電システムは停電すると発電できませんが、今回設置したシステムには停電時にも発電を続けられる設備が追加されています。さらに、非常用発電機も併設し、万一の停電に備えています。法定を上回る耐震性能を付与し、「避難安全検証法」によって有事の際に社員が安全に避難できることを確実にしています。

■ 地域に開かれた会社をめざして

新社屋の前面にはあえてフェンスを設けず、広々とした緑地を地域住民に開放しました。食品安全（フードディフェンス）を担保するため、生産エリアにはセキュリティラインとなるフェンスを設けているものの、見通しのよい素材を採用し、地域住民の安心感を高める工夫をしています。11月3日(祝)には、地域住民を対象とした内覧会も開催します。

将来的には、約100名を収容可能なセミナー室に地域の子供たちを受け入れて科学実験教室を開催することも構想しています。

【計画概要】

所在地	： 千葉県富津市大堀 1029 (既存事業所とひと続きの隣接地ですので、住所表記に変更はありません)
建物概要	： 本館＝鉄骨・鉄筋コンクリート造・地上2階／延床面積3,923平米 倉庫＝鉄骨造・地上1階／延床面積1,995平米
着工	： 2021年8月1日
竣工	： 2022年10月4日
移転日	： 2022年11月7日
設計	： 本館＝株式会社類設計室 倉庫＝大成建設株式会社
施工	： 大成建設株式会社

株式会社キミカについて

株式会社キミカは、天然の海藻から「アルギン酸」を抽出し、様々な産業に供給するわが国唯一のメーカーです。アルギン酸は海藻に含まれる多糖類で、食感改良剤として様々な加工食品に利用されるほか、医薬品、化粧品、繊維、鉄鋼、製紙など幅広い分野で活用されています。

株式会社キミカは日本で初めてアルギン酸の工業的生産に成功し、以来80年間にわたり業界を牽引しています。アルギン酸市場における弊社の国内シェアは90%を超え、特に高品質が求められる食品・医薬品向けの分野においては、名だたる競合メーカーを抑えて世界トップの生産量を誇ります。

近年はSDGsのフロントランナーとしても注目されており、2020年には日本のSDGsの最高賞「ジャパンSDGsアワード」で特別賞を受賞、2021年には環境大臣賞を2度受賞、2022年には英国王立財団・ウィリアム王子が創設した世界で最も権威ある環境賞「アースショット賞」にノミネートされています。

【お問合せ】 プロジェクト推進室 笠原 | 0439-87-1131 | kasahara-z@kimica.jp